

大草谷津田いきものの里 自然観察会

オニヤンマとアカトンボ

太田 慶子（千葉市）

日 時：2016年9月18日(日)10:30～12:00 天候：小雨が降ったり止んだり

参加者：24名（大人13名、子ども11名）

担当指導員：太田慶子、芳我めぐみ

朝から今にも降りそうなお天気で、観察会を実施してもトンボ達はあまり出てこないだろうなあと思いつつ下見をしたが、入口広場と東邦大の田んぼあたりの電線にいっぱいノシメトンボが止まっていた。オニヤンマもたくさんいるノシメトンボを捕えようとしてか、上空を飛んでいた。

初めに、スズメバチについての注意と、いきもの里に外来生物などの持ち込みは止めてほしい（駆除には税金もかかる！）ことを言う。

まず、オニヤンマは名前だが、アカトンボは「赤いトンボ」のことで、ふつうはアカネ類の事を指し、外にオレンジ色のウスバキトンボや♂が赤いショウジョウ（猩々）トンボがいて、今や関西ではアカネ類は本当にいなくて、ウスバキトンボが今はアカトンボを言えると話す。関東では…と言いかけると、男の子が「アキアカネ…」と口にする。そう、関東では初夏に羽化して夏は涼しい山に避暑に行っているアキアカネなどをふつうアカトンボと言い、アキアカネは秋雨前線が下りてきて涼しくなると山から戻ってくるが、まだ戻って来ていないと話す。

大草などで見られるアカネ類には何種類かいて、主に胸の模様で区別すると、「模様を描いた資料」を大人には渡した。けれど、小雨降る今日見られたのは、翅の先が茶黒いノシメトンボばかりだったので、比較して違いを説明することができなかった。

谷津田に出ると、バッタやイナゴ、カマキリがいっぱいいて、子ども達は目の前の虫を捕まえようとする（ノシメトンボも子ども達の目線からはかなり高い所にしかいない）。お父さんが、「ほら、あそこにオニヤンマいるから…」と遠くを指してもなかなかバッタ捕りは收まらなかった。初めてカマキリを自分の手で持ったお母さんは感激？ 小さなコカマキリの後はオオカマキリも手にできたそう…。

お父さんが、小さなアズマヒキガエルがいると捕まえたら、すぐに15cmくらいある大きなものもいて、1m以上もあるアオダイショウにヤマカガシも登場。小雨の天気がカエルを出現させ、カエルを狙うヘビもお出ましになったということでしょう。なかなか、カエルにヘビが2種類も、短時間でなかなか見られないと話す。（この後、アカガエルも出てきた）

オニヤンマは、天気ならオスが水路を往復する姿が見られるのだが、今日は上空にいるノシメトンボを含めた小さな飛ぶ虫を捕ろうとしてか、なかなか低い所へ降りてこず、いつもの観察会のように実物を捕まえて、じっくりその大きさや複眼が一点でくっついている様を観察する事ができなくて残念だった。

他に、オオカマキリの交尾（・・・この後、メスはオスを食べてしまうのかどうか、話題になる）。また、ノシメトンボがイナゴを食べていたのを眺めていたり、テーマからはちょっと淋しいトンボの観察会だったが、熱心に虫を捕まえて下さったお父さんもいて、子ども達も楽しかったと思う。（急速に数を増やすアカボシゴマダラも登場した）

